

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

●東京外国語大学総合国際学研究科言語応用専攻

「即戦力通訳者養成のための高度化プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・本プロジェクトでは、高度職業人であることが求められる通訳者の養成を目的とし、後述の通訳翻訳演習・実習と連携する形で通訳翻訳理論を新たに開講した他、英語逐次通訳演習や英語学術表現演習（翻訳実技）などの科目を設置し、体系的なコースワークを構築した。

- ・新設した同時通訳演習室を使用し、月に数回の頻度で各分野で活躍する講師をゲストスピーカーとして招き、同時通訳形式を中心とした通訳実習の機会を提供した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・英語逐次通訳演習においては現役の著名な会議通訳者を講師として招いた他、英語学術表現演習でも十分な経験を有し現在も活躍中のプロの翻訳者に対し、本プロジェクトの理念や趣旨を十分説明し、理解いただいた上で講師を依頼した。
- ・他方、通訳者を目指す上で理論面での強化を図るべく、授業では最先端を行く世界各国で研究されている理論の紹介に力を入れるよう講師に依頼した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・実技に重点を置いた科目のほか、理論面での充実を図ったことで、高度職業人としての通訳者の行為に対して深い見識を与えることに成功した。また、本プロジェクト取り組み中に実施したアンケート結果によると、学生の特設科目を含むコース全体への満足度が非常に高い結果となった。